

黄土高原・退耕還林地区における食糧供給チャネルに関する一考察 —全国退耕還林模範県である吳起県を例に—

原 裕太・西前 出 京都大学大学院 地球環境学堂・学舎

■結論

- 吳起県への周辺地域からの食糧供給があることが確認できた
(寧夏の小麦粉・コメの販売, 吳起県からの出稼ぎ労働者による仲買行動)
- 黄土高原・退耕還林地区の食糧供給問題は, より空間的視野を広げた枠組みの中で議論されるべき
- かつ, 住民の「食」への嗜好や生活状況なども考慮した, システム全体で評価される必要がある

■背景・目的

黄土高原

- ✓ 半乾燥気候, 世界で最も土壌侵食が激しい
- ✓ 斜面でのアワ, ソバ, ジャガイモ等の自給生産



侵食対策: 退耕還林 1999年~

- ✓ 国主導による斜面耕地等への植林プロジェクト
- ✓ 植林実施者への食糧や補助金の支給
- 地域で生産が困難なコムギ・コメ中心の食生活へ



退耕還林に対する食糧供給の健全性評価

既往研究における問題の所在

地域内の穀物生産や
土地利用にのみ着眼 → 地域の現状が十分に
踏まえられていない

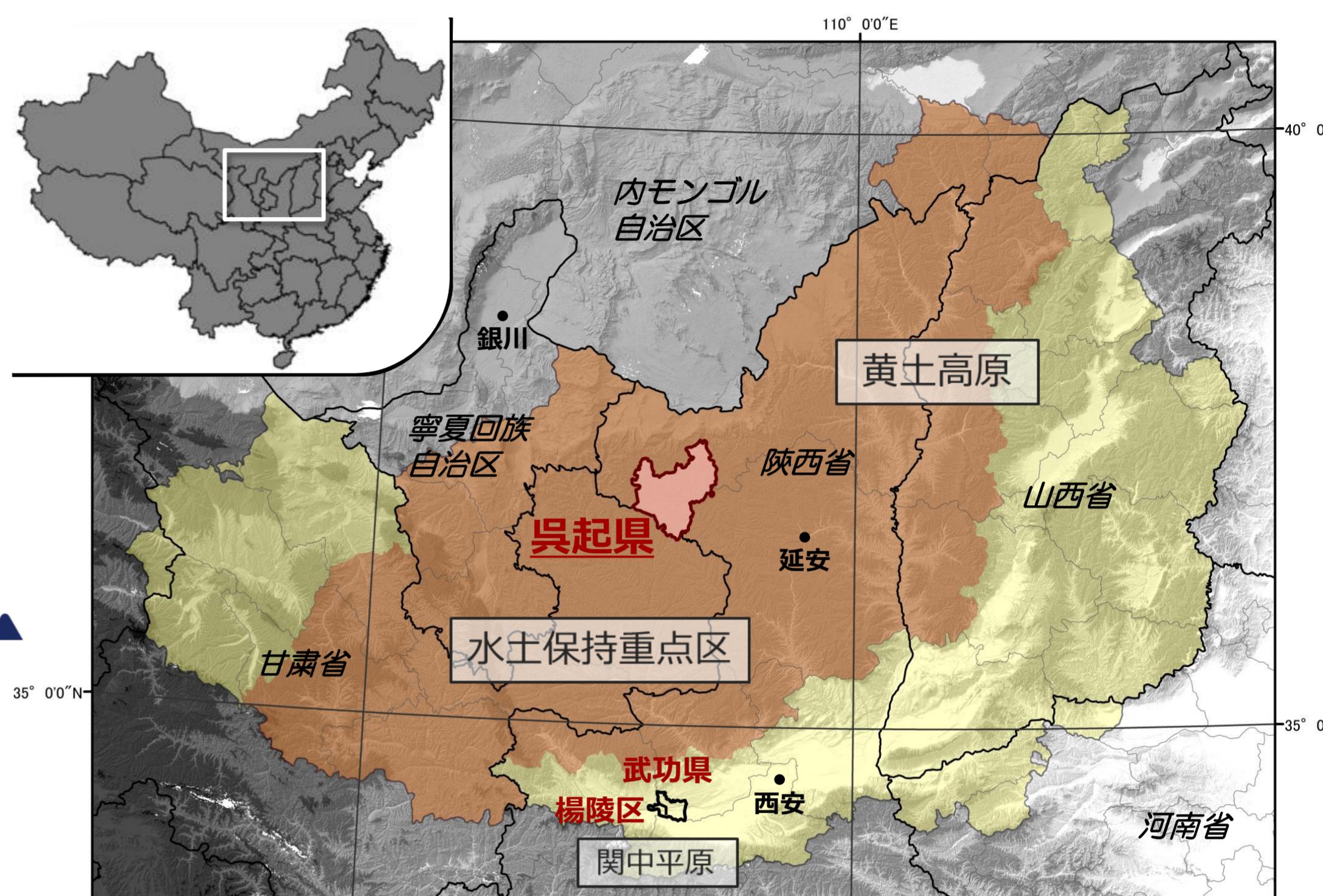
- 目的**
- ✓ 食糧を介した外部地域との関係を解明
 - ✓ 既存研究の枠組みにおける課題を明確化

■対象地域

中国・陝西省延安市吳起県

46.3 %

退耕還林で
消失した
耕地の割合
(1998-2010年)



57.9 %

25°以上の
急傾斜地が,
県の総面積に
占める割合

図1. 黄土高原における研究対象地の位置

調査期間 | 2015年9月12日~19日

■多様な食糧供給チャネル

- ✓ どこからコムギ, コメはやってくるのか?
- ✓ どのようにして農村住民の手に渡るのか?

■市場を介した地域の結びつき

方法 市場の観察, 政府関係者・住民へのインタビュー

定期市(集市)

場所: 吳起県吳倉堡鎮

- ✓ 穀物の売買はみうけられなかった

小麦粉やコメは, スーパーや商店で買う。
退耕還林後, 市場へのアクセスが増えたと思う。

吳倉堡鎮政府幹部, 吳倉堡鎮周官村住民2人, 吳起鎮金佛坪村住民1人

常設小売店

場所: 吳起県城

- ✓ 外地で収穫, 生産された小麦粉とコメが販売されている

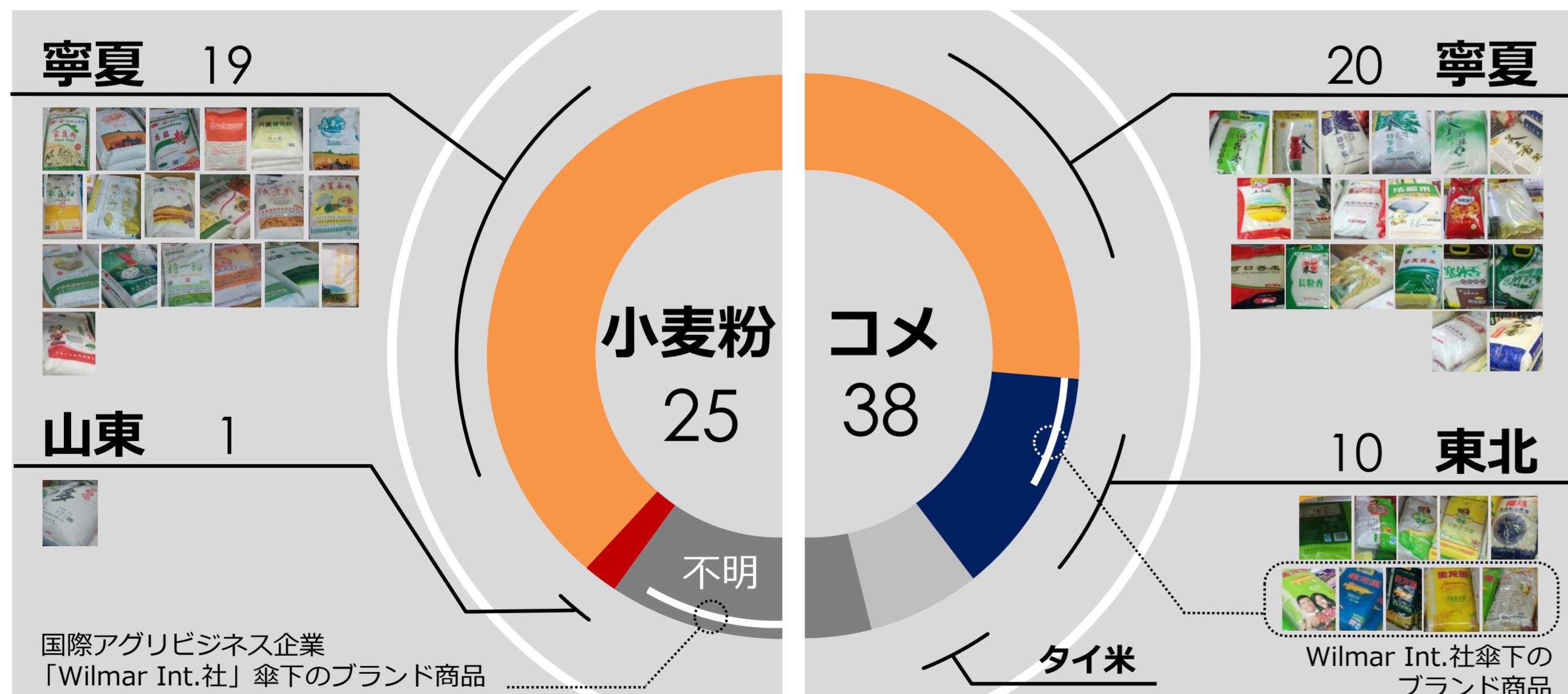


図2. 吳起県のスーパーで販売される小麦粉, コメの商品数と产地

小麦粉, コメとも, 産地の多くは寧夏。
コメに関しては, 東北産のものもあるが少ない。

吳倉堡鎮政府幹部, 吳倉堡鎮周官村住民2人

■出稼ぎ労働者の仲買行動

方法 出稼ぎ労働者へのインタビュー

吳起鎮金佛坪村

西安市や河南省での出稼ぎの帰りに, **コムギを**
閑中平原など現地の農家から直接買い上げる。

吳起県の各村では普段から見られると思う。
私の村だと**10数人中2~3人が**行っている。
2tから5t程度の車で, 繁めて持ち帰る。
閑中平原のスーパーで小麦粉を買うことも。

理由は?

吳起県の小売店で小麦粉を買うよりも,
閑中平原で調達した方が**少し安いから。**

出稼ぎは, どんな仕事を?

運輸業。大体7~8日間ほど出て,
吳起県の村に3~4日間戻って休む周期。

閑中平原の農村での 裏付けインタビュー

場所: 陝西省咸陽市武功縣閑家村

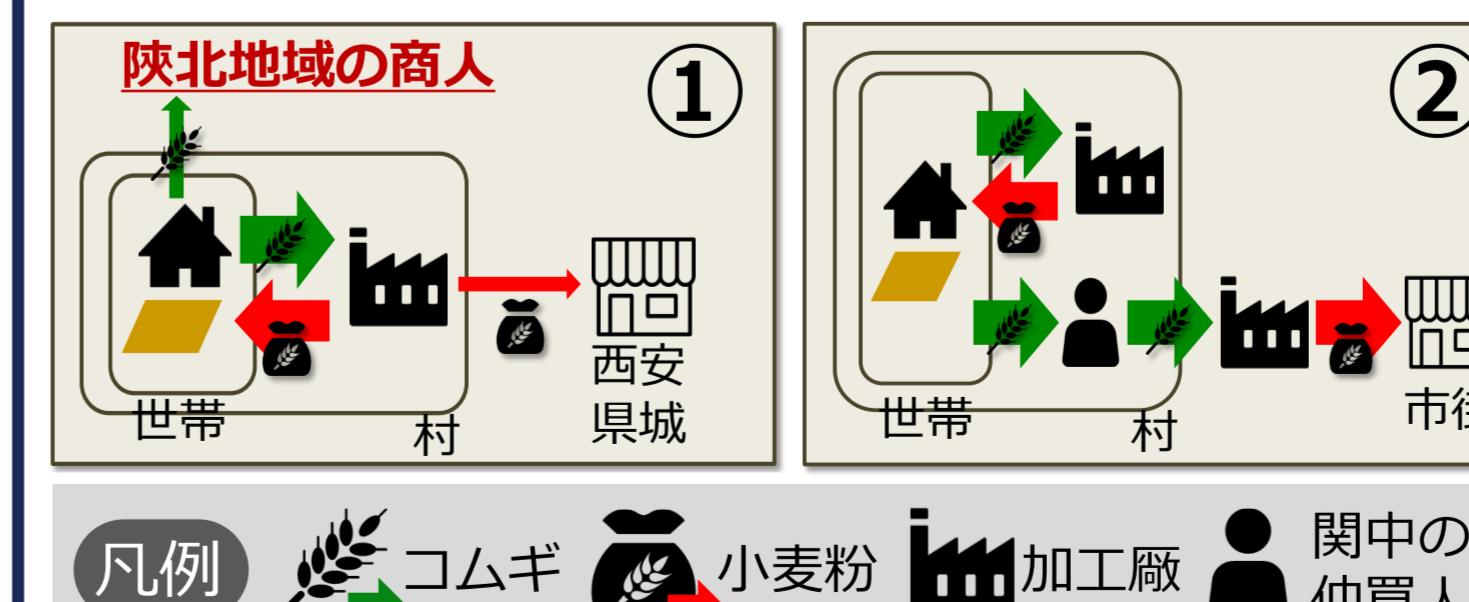


図3. 武功縣におけるコムギ流通の事例

結果 仲買行動を認知している
住民が確認された。

なぜ, 吳起と閑中の 売価に差があるのか?

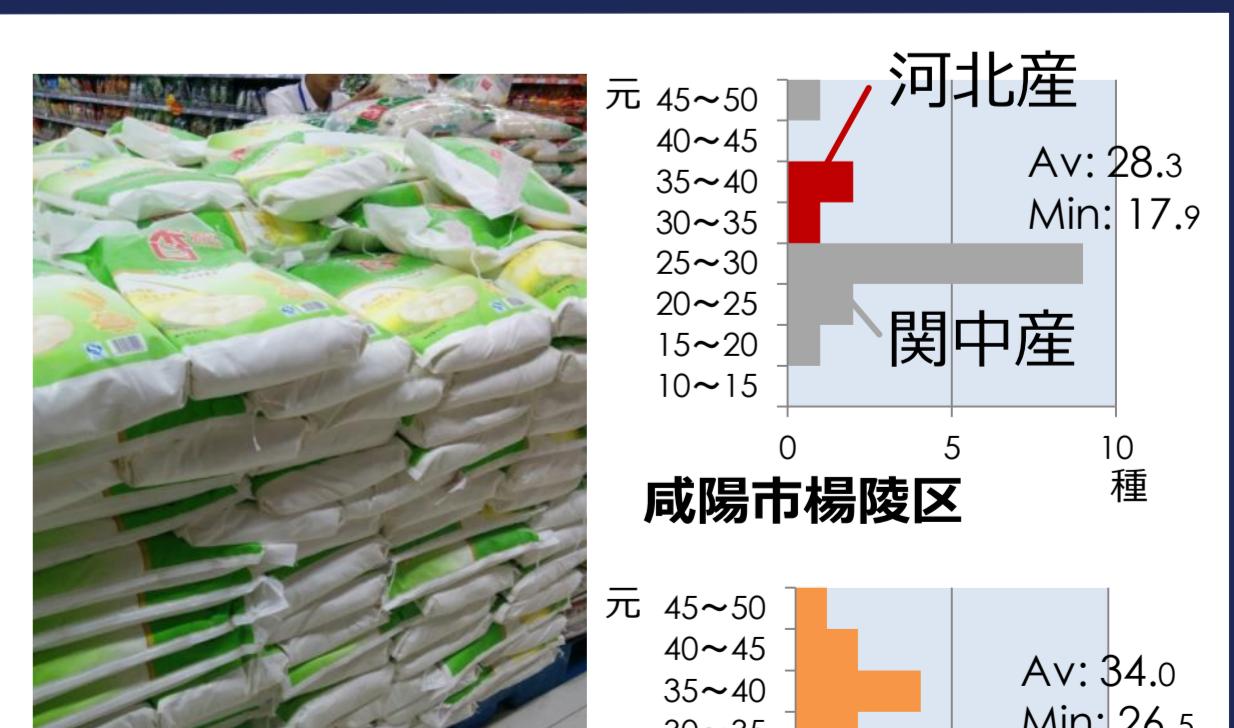


図4. 吳起県と楊陵区における
小麦粉(5kg/袋)の価格と产地

■寧夏が抱える環境問題と農業

- ✓ 水資源の需要増加と気候変化によって**水不足が深刻化**
- ✓ 灌溉のために黄河から過剰に水分を摂取しているため,
地下水位の上昇や塩害が発生している



Xu et al. (2013)